

<p>日本子ども支援学会</p> <p>ニュースレター</p>		<p>4月臨時増刊号</p> <p>2020.4.1</p>
---------------------------------	--	--------------------------------

中国（上海）における子育ての実際

孫 静霞、趙 珊珊、黄 博、龐 佳
張 静、徐 曉純、汪 寒（以上、上海杉達学院）
秦 政春（同済大学・上海杉達学院）

1. 文化としての子育て

日本人は、いつ「日本人」になるのだろうか。この問いに対して、思わず「生まれたときから」と思う人が多い。果たして、そうか。むろん、国籍など制度的なことにおいては、「生まれたときから」である。

しかし、少なくとも生まれたとき、国や地域、民族による違いはほとんどない。日本人として生まれたからといって、すぐに日本語が話せるわけではない。日本人なら普通に持っている習慣、しぐさ、行動様式も身につけているわけではない。あるいは、よくいわれる日本的、あるいは日本人の感性や感覚も、まだ内面化されてはいない。

そういったものは、すべて生まれてからの「教育」によるものである。日本語をはじめ、日本的な、日本人の意識や態度、行動様式、そして感性や感覚にいたるまで、「生まれてから」学んだものである。そうしたものを身につけて、はじめて日本人は「日本人」になる。

人間の成長の過程は、生物学的存在から社会的存在になることだと、よくいわれる。社会的存在になるということは、その社会にある一定の意識、態度、行動様式に身につけることに他ならない。教育とは、「社会化 (socialization)」であるといわれる所以はここにある。むろん、これは日本人だけの問題ではない。どの国であっても、どこの地域であっても、あるいはどんな民族であっても、基本的にはこれが当てはまる。その良し悪しはともかく、ある集団に適応するということは、その集団のもつ「特性」を身につける必要がある。

その「教育過程」は、多くの場合、まずその子どもの親、あるいは保護者から始まる。一般的には「子育て」、「しつけ」といったものである。そして、そこでは、たとえば日

なお通常の臨時増刊号は、ワークショップ終了後当日のレジユメに加筆し発行してきたが、今回は上海ブランチから調査研究の報告書が寄せられたので、臨増とした。

ニュースレター委員会委員長 深谷和子

本であれば、多くは日本人の親や保護者が、子どもを日本人として育てる。かといって、ことさらに「日本人、日本人」と意識しているわけではないが、ごく普通に、自然に日本人として育てていることになる。このことについては、日本にかぎらず他国においても同様である。その意味で、親や保護者の子育ての「仕方」は、とても重要な意味をもつ。

こう考えると、この子育てという行為には、国によってどんな差異があるのだろうかという疑問がわいてくる。子育てという「教育」には、学校のようなカリキュラムがあるわけではない。いわば、「私的領域」であって、同じ国であっても個人差がないわけではない。

まして、国が違えば文化も違う。習慣も違えば、さきほどの意識、態度、行動様式にも異なるところがある。学校教育以上に差異が生じている可能性もある。つまり、そこには「子育て文化」といったようなものが存在している可能性もある。

社会のグローバル化に伴って、「異文化」ということがよく話題になる。その背景には、間違いなく「子育て文化」の差異が根底にある。

2. 上海での調査の実施

子育てには「文化」がある。これは、一つの仮説として考えられることである。

これを検証することも意図して、昨年から中国（上海）における子育てに関する実態調査を行ってきた。いま、ちょうどデータ入力完了したところである。したがって、データの的にはまだラフな状態である。そのことを、まずお断りしておきたい。また日本でも、まったく同様の調査を九州の研究グループで実施している。将来的には、これらの調査結果を比較検討するかたちで発表したい。

ここで、この調査のプロフィールを紹介しておきたい。上海市内の四つの幼稚園にお願いして、そこの園児の保護者（基本的には父親、母親）を対象にして調査を実施した。

調査内容は、このあと問題にする子育てに関する自己評価、悩み、祖父母の関わりなどをはじめとして、子育てに関する意識・行動の全般にわたっている。回収率は、まだ最終集計を行っていないが、90%を確実に超えていることは間違いない⁽¹⁾。

サンプル数は、いまのところ912を数えている。その内訳は、父親が265サンプル、母親が644サンプルである（いずれも質問紙の記入者）。また、子どもの性別は、全サンプルのうち男子51.0%、女子49.0%である。子どもの年齢は、3歳児、4歳児、5歳児がほぼ同じくらいの割合を占めており、これ以外に1割に満たない程度の6歳児が含まれている。

なお、以下の検討では、字数の関係もあって子育て意識や、その実態に関して概略的な部分に限定せざるを得なかった。したがって、実際の子育ての「内容」にまでは踏み込めなかったことを、まずお詫びしておきたい。

3. 子育てに対する親の意識・態度

まず、最初に子育てに対する親の意識・態度についてみておきたい。表1は子育てが楽しいかどうかきいたものである。全体的にみるかぎり、中国（上海）の親たちは、子育てに関して好意的な印象である。とくに、「とても楽しい」という父親はほぼ4割近く、母親は3割程度を占めている。

表1 子育ては楽しい？

単位：%（N）

子育て	とても楽しい	やや楽しい	あまり楽しくない	まったく楽しくない	計（N）
父親	37.4	58.1	4.5	0.0	100.0(265)
母親	31.2	62.1	6.2	0.5	100.0(644)

続いて、その子育ての「成果」ともいえるが、子どもが上手く育っているかどうかという問題である。表2をみればわかるように、全体的にはまずまずうまく育っていると感じている。したがって、多くの親たちは、自分の子育てに対して肯定的な評価をしていることになる。

表2 子どもが上手く育っていると感じているかどうか

単位：%（N）

上手く	とても感じる	やや感じる	あまり感じない	まったく感じない	D. K., N. A	計（N）
父親	7.2	67.5	23.8	0.4	1.1	100.0(265)
母親	3.9	67.5	27.5	0.5	0.6	100.0(644)

しかし、その反面で、2割を超える親たちはこれにネガティブな意識をい込んでいる。これが、いったいどんな親たちなのか、どんな子育てをしているのか詳細に検討する必要があるが、いまのところ今後の検討課題である。

なお、子育てと関連が深いと考えられるが、子ども（第1子）が生まれたことで、自分自身に変化があったのかどうかということについては、次のような結果がみられる。「とても変わった」という親は、全体の4割を超えている（父親：47.5%、母親：44.6%）。また、「やや変わった」という割合が、ほぼ5割程度を占めている（父親47.9%、母親48.6%）。

以上のような結果を総合すると、子どもを育てるという行為に関して、多くの親は肯定的なイメージを持っていると考えてよい。

4. 子育てに対する悩み

とはいえ、子育てに対して悩んでいる、困っているという割合は、決して少なくない。表3をご覧いただきたい。「よくある」という割合は、父親は15.8%、母親になると

25.5%を数えている。「ときどきある」ということでは、父親、母親、それぞれ65.7%と63.8%である。子育てということを考えれば、当然といえば当然の結果かもしれない。

表3 子育てに対して悩んだり困ったりすること 単位：% (N)

悩み	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない	D.K., N.A	計 (N)
父親	15.8	65.7	17.4	1.1	0.0	100.0(265)
母親	25.5	63.8	9.6	0.3	0.8	100.0(644)

その不安の内容についてしてみると、次のような実態が明らかである。それぞれの不安や悩みについて、「よく思う」と「ときどき思う」という2つの割合を合わせた数値をあげておきたい。カッコ内の数値はそのうち、「よく思う」という割合である。なお、ここで示した数値は親（父親と母親）全体の割合である。

もっとも割合が高いものは、子育てに関する知識が足りないというもので70.6%(8.8%)を数えている。次いで、しつけの効果が62.4%(14.8%)、自分の教育力60.6%(17.0%)、子どもの性格60.0%(17.2%)といった具合である。さらに、配偶者が子育てに無関心46.6%(13.8%)、誰も助けてくれない46.1%(11.7%)、子どもと接する時間が少ない45.3%(15.5%)、子どもの健康状態43.6%(8.3%)といったように並んでいる。

それでは、こういった不安や悩み、困ったときに、いったい誰に相談しているのだろうか。「1番目は誰、2番目は、」といったように質問した。

「1番目」は、父親、母親ともに圧倒的に配偶者である（父親83.8%、母親67.5%）。母親の場合は、これ以外にいわゆるママ友が13.7%、自分の親7.0%、親しい友人が6.5%を数えている。「2番目」になると、父親は自分の親32.5%、親しい友人21.5%になる、母親はママ友25.6%、自分の親23.9%、親しい友人15.7%である。

「3番目」では、父親が親しい友人22.2%、ネット情報13.2%、そして園の先生が14.7%である。いっぽう、母親は親しい友人が22.2%、ママ友14.4%、ネット情報13.2%、園の先生12.9%といったようになる。

端的に言えば、父親、母親ともに、まず配偶者である。そして、そのあと自分の親、ないしは友人が続く。さらに、ネット情報、園の先生に相談といった順番である。

参考までに、夫婦の間で、子育てや育児の悩みについて、どのくらい話し合っているのかみておきたい。よく話すという割合は50.0%（父親55.5%、母親47.7%）、ときどき話す44.0%（父親40.8%、母親45.3%）といったようになる。さきほどの結果と、ほぼ一致するパターンである。

また、園の先生とのコミュニケーションについて触れておきたい。表4に示したように、かならずしも頻繁というわけではないが、多くの親は先生とのコミュニケーションをとっていることがわかる。

表4 園の先生とのコミュニケーション

単位% : (N)

園の先生	よくとる	ときどきとる	あまりとらない	まったくとらない	D. K., N. A	計 (N)
父親	18.5	64.2	15.5	1.9	0.0	100.0(265)
母親	20.5	64.6	13.8	0.3	0.8	100.0(644)

この結果に関して、とても興味深い事実は、コミュニケーションの度合いが父親、母親ともに大差がないところである。

コミュニケーションを「よくとる」という割合は、父親の18.5%に対して、母親は20.5%で大差はない。「ときどきとる」という割合をみても、まったく類似した数値を数えている。中国では、両親が協働して子育てに取り組んでいる実態をものごとっているといえよう。

5. 子育てに関する祖父母の存在

中国には、子育ては「母親の仕事」といった習慣も文化もないといっても過言ではない。祖父母が子育て（孫育て）に関与することは、ごく普通のことである。

そこで、これに関する実態についてみておきたい。まず、子どもを取り巻く父母や祖父母が、どういったパターンで子育てに関わっているのかという問題である。

もっとも割合が高いのは、父母に加えて祖父、祖母、あるいは祖父母が関わっているというパターンで全体の63.4%を占めている。この結果だけでも、子育ては家族の「仕事」という傾向をよく示している。

ちなみに、父母だけ15.5%、父だけ0.9%、そして母だけが2.9%である。子育てに、いかに祖父母が関与しているか、じつによくわかる。しかも、父と祖父母1.9%、母と祖父母5.8%、なかには祖父母だけというものもあるが、これが8.0%をも数えている。

表5 祖父の関与のパターン（子どもの性別）

単位：% (N)

性別	祖父だけ	外祖父だけ	両方	関わっていない	計 (N)
男子	20.2	16.1	11.8	51.8	100.0(465)
女子	20.3	15.3	11.7	52.6	100.0(443)
計	20.2	15.7	12.0	52.2	100.0(912)

いずれにしても、祖父母が関与していることは間違いないが、その内訳はどうなっているのか。つまり、祖父母と一言でいっても、父方、母方それぞれ4人いる。その内訳である。祖父からみてみよう。いわゆる「祖父」（父方）が関わっているという割合は20.2%、「外祖父」（母方）は15.7%、両方というものが12.0%になる。祖父が関与していないという割合は52.2%である。

次に、祖母である。「祖母」は28.2%、「外祖母」26.8%、その両方が22.0%である。関与していないという割合は、全体の22.9%でしかない。

表6 祖母の関与のパターン（子どもの性別） 単位：%（N）

性別	祖母だけ	外祖母だけ	両方	関わっていない	計（N）
男子	28.2	26.7	22.8	22.4	100.0(465)
女子	28.4	26.6	21.0	23.7	100.0(443)
計	28.2	26.8	22.0	22.9	100.0(912)

あえて指摘するまでもなく、祖父のほぼ半数、祖母の場合は全体の8割ほどの高い割合で子育て（孫育て）に関わっていることがわかる。その理由の第1は、やはり両親の仕事のせいである。祖父母に手伝ってもらう理由についてきいてみると、「出勤時間が厳しい」51.2%（父親55.1%、母親49.8%）、次いで「夫婦二人とも仕事が忙しい」29.7%（父親23.8%、母親32.1%）といった具合である。周知のように、中国では母親（女性）が仕事に就いていることは普通のことである。そういった事実を如実にものがたっている。

祖父母の関与に関して、いま一つ重要なことがある。経済的な援助である。経済的な援助を「とてももらっている」という割合は8.8%、「ややもらっている」ということでは41.7%になる。そうすると、全体の半数ほどの親は、子育てに関して自分の親からの経済的援助がある。

つまり、子育てに関するかぎり、自分の親からかなりの恩恵を受けているということになる。しかし、そのいっぽうで、いろいろな問題状況もないわけではない。たとえば、子育てに関して祖父母と考え方が違う場合があるということである。こういったことが「よくある」という割合は17.7%（父親16.2%、母親18.2%）、「ときどきある」ということになると55.5%（父親54.3%、母親56.1%）にも達している。

世代間のギャップということになるが、これだけのことならそれほど問題はない。しかし、祖父母の子育てについて「心配している」ということになると、あまり楽観できるものではない。これの割合をみてみると、「とても心配」が9.9%（父親7.5%、母親10.9%）、「やや心配」では37.0%（父親34.7%、母親37.9%）を数えている。

表7 祖父母の子育ては子どもの成長にマイナス 単位：%（N）

マイナス	とてもある	ややある	あまりない	まったくない	D. K., N. A	計（N）
父親	3.0	33.6	49.8	9.4	4.2	100.0(265)
母親	5.3	31.2	55.4	5.1	3.0	100.0(644)
計	4.6	31.8	53.8	6.4	3.4	100.0(912)

それどころか、表7をみればわかるように、祖父母の子育ては子どもの成長にマイナスになると考えている親も、決して少数ではない。マイナスということに関して、「とてもある」という親は4.6%（父親3.0%、母親5.3%）、「ややある」という割合は31.8%（父親33.6%、母親31.2%）にもなる。

これに対して、祖父母自身も子育て（孫育て）に対して不満を持っている割合がかなり高い。子育てに関与している祖父母が、育児をすることに不満をもっているかどうかということについて、「とても不満がある」という割合は43.3%（父親44.5%、母親42.8%）、「やや不満がある」ということでも47.2%（父親47.2%、母親47.3%）を数えている。祖父母本人の意見ではないが、子育て（孫育て）にかなりネガティブな様子が見えてくる。

プラス、マイナスの両面があるとはいえ、基本的には1人の子どもを中心に、6人の大人が愛情を注ぐ。この形が、典型的な中国の子育てパターンである。そして、そこには家族の強い結びつきがある。

しかし、その内実には、日本とはまた異なる複雑な状況もありそうである。祖父母は孫がかわいい、親は子育てを自分の親に手伝ってもらってありがたい。そんな単純な図式ではないらしい。この事実だけをみても、子育てに関するかぎり、祖父母に手伝ってもらえればすべて解決といった状況ではない。

（付記）

冒頭にも述べたように、今回は子育ての実際の中身については、まったく触れられなかった。

中国は、間違いなく学歴社会であり、そこにはとても厳しい競争がある。それは、家庭における子育てにも大きく反映している。また、幼稚園などの幼児教育機関でも、そうした状況が色濃くみられる。たとえば、「早期教育」などである。その内容をみると、2～3歳児から英会話を習わせるといったことも少なくない。

こういった事情に関しては、また別の機会に御報告させていただきたいと考えている。

（了）

【註】

1、データの集計に関して、上海杉達学院の以下の学生たちの協力を得た。

劉 宇豪（外国語学院4年生）

鈕 可馨、肖 馮澤、徐 玥。（いずれも、外国語学院3年生）

2、中国人の人名に関しては、日本語の漢字表記とした。